

1 平和の鐘



開催概要 (平成24年度)

歳事名：平和の鐘
 会場：権現山 時鐘楼
 (JR岐阜駅、名古屋鉄道 名鉄岐阜駅より 岐阜バス「県総合庁舎前」下車 徒歩20分)
 日時：平成24年7月9日(月) ※例年7月9日開催
 参列者数：約180人
 連絡先：岐阜市 市民参画部 市民協働推進課 058-265-4141 (代表)

式次第 (平成24年度)

1. 子どもたちに伝える岐阜空襲体験談
2. 代表者による打鐘(合わせて全員で黙とう)
3. 藤澤副市長あいさつ
4. 来賓あいさつ(岐阜市仏教会会長 杉山 令憲)
5. 岐阜中央中学 生徒代表による平和への誓い
6. 岐阜中央中学1年生による合唱
7. 来賓、生徒、一般参加者による打鐘

副市長あいさつ (平成24年度)

皆さん、おはようございます。本日は、早朝よりご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日7月9日は、今から67年前の1945年(昭和20年)に岐阜市が空襲を受けた日にあたります。

岐阜市史によりますと、この空襲において、市街地の約80%が被災し、全戸数の52%にあたる2万戸を超える家屋が焼失、罹災者は全人口の約44%にあたる86,577人、死者863人、負傷者520人にもおよび、岐阜市において、濃尾震災を超える大惨事でありました。

この「平和の鐘」事業は、戦争の悲惨さを後世に語り継ぎ、亡くなられた人々を追悼し、平和への決意を深めるために、平成2年から実施し、今年で23回目を迎えます。

この事業には、毎年、時鐘楼の鐘の音が聞こえる近くの中学校の皆さんに参加していただいております。今年は、岐阜中央中学校1年生130名の皆さんに参加いただきました。ありがとうございます。

先ほども、岐阜空襲の体験者の若原さんから、当時の状況を話していただきましたが、今も地球上では、紛争が絶えることはなく、子どもを含む罪のない多くの人々が犠牲となっております。戦争を知らない若い世代に、このような体験談から戦争の悲惨さをより身近な出来事として知ってもらい、平和の大切さをもう一度、考えていただくことが、世界の恒久平和につながるものだと思います。

本日は、岐阜市仏教会様などのご協力によりまして、市内の寺院等約130箇所、一斉に市民の皆様によって平和の鐘を鳴らしていただいております。

現在、市長が岐阜市の姉妹都市であるサンダーベイ市を訪問しておりますが、7月7日に現地で「平和の鐘」の式典に出席しまして、鐘を鳴らしました。そのほか、フィレンツェ市、ウィーン市マイドリング区、カンピーナス市及びシンシナティ市におきましても、この事業にご賛同いただき、世界の平和を願い、鐘を鳴らしていただいております。ここにお集まりの皆さんにも、平和の意義を今一度考えていただき、恒久平和を願う鐘の音が世界へ届くよう願いを込めて、この後、平和の鐘を打ち鳴らしていただきたいと思います。

最後になりましたが、早朝からお集まりいただきました皆様方に感謝申し上げ、私の挨拶といたします。

岐阜副市長 藤澤 滋人

2 萬靈供養塔・戦災者慰霊墓地



基本情報

所 在： 上加納山墓地
 住 所： 岐阜県岐阜市上加納山4717-4
 (JR岐阜駅、名古屋鉄道 名鉄岐阜駅より 岐阜バス「上加納墓地前」 徒歩5分)
 連 絡 先： 岐阜市仏教会 058-266-7803
 建 立 者： 岐阜市仏教会
 建 立 年： 昭和23年7月9日

碑 文

【萬靈供養塔・表】

萬靈供養塔

【萬靈供養塔・裏】

夫れ生者必滅會者定離とは寔に大聖釋尊佛陀の金言なり其の別れゆくや恩愛の絆固きも以て繋ぐに由なく思慕の情密なるも以て留むるに道なし若し夫れ深夜万籟寂として聲なき□□□の昭和二十年七月九日夜の上空襲に遭うて悲慘の横死を遂げ跡げ弔ふ人もなく無縁佛になりて此の墓地に葬られし三百八十七人の人々を憶へば惻隱の情油然而として湧くなるべく又天寿を全うし得ずして戦争の犠牲となり或は外地引揚途上にて鬼藉に入りし人々のことを思ひ来らば慟天哭地の念禁る能はざるべしいまや終戦三年主権在民の憲章成り平和國家の基礎定まれるも是等の尊き人柱のありて新國家は固く歩を進め新憲法は強く輝を増すと云ふべきか茲に岐阜市佛教會發願して全市民各位の喜捨に依り此の萬靈供養塔を建立して永遠に之を追善回向し併せて今後有縁無縁の靈をも願によりて納骨し菩提を□□たらしむもの也是れ洵に佛心大慈の下自他法界平等利益の實を承くるもの乎 銘に曰く 岐山之下 釋尊未躬 回向發願 精進不空 藍川之流 應聲和尚 萬靈巨塔 屹聳蒼穹 戦争犠牲 外地忠雄 有無俱攝 普納斯中 廣大佛德 内外玲瓏 存亡齋利 法界回融 昭和二十三年七月九日開眼供養之日 岐阜市佛教會長等白龍謹んで撰じ併に書す 同會顧問瑞龍寺滴翠軒正面を書す

【戦災者慰霊墓地】

安心立命

3 萬靈供養塔法要



開催概要 (平成24年度)

歳 事 名： 萬靈供養塔法要
 会 場： 上加納山墓地 萬靈供養塔、戦災者慰霊墓地前
 (JR岐阜駅、名古屋鉄道 名鉄岐阜駅より 岐阜バス「上加納墓地前」 徒歩5分)
 日 時： 平成24年7月9日(月) ※例年7月9日開催
 参 列 者 数： 約30人
 連 絡 先： 岐阜市仏教会 058-266-7803

式 次 第 (平成24年度)

【萬靈供養塔前】

1. 読 經
2. 焼 香

【戦災者慰霊墓地前】

1. 読 經
2. 焼 香

式 辞 (平成24年度)

なし

4 戦災死没者之慰霊碑



基本情報

所在：護国霊苑
 住所：岐阜県大垣市笠木町283-1ほか
 (養老鉄道 北大垣駅 徒歩3分)
 連絡先：大垣市戦災遺族会 0584-91-3639
 建立者：市戦災死没者遺族会
 建立年：昭和43年7月28日

碑文

【表】

戦災
戦災死没者之慰霊碑

【裏】

碑銘

太平洋戦終結迫る昭和二十年七月わが大垣市は三度に亘る空爆によって焦土と化し幾多の市民が郷土防衛中或は何等の防備なくして非業の死を遂げ又他都市に於ても多数の住民が戦災死した事は誠に感慨無量なるものがあります これらの御霊を祀るこの碑は県市当局の助成と市民の浄財並びに遺族の志納によって昭和四十三年七月二十八日の記念すべき日に落成開眼しました

噫戦後全く忘れ去られていたこれらの御霊はここに安んじて永遠の眠りにつく事を得ました 願わくば今後はこの縁によって日本全土の眞の平和を護持し国勢の進展を切に望む不滅のあかしとなり隣接する戦死者の碑と共に水都大垣の守護として泉光をたれたまわんことその御冥福を祈り謹んで建碑の趣意といたします

題字 大垣市長山本庄一
 協賛 岐阜県 大垣市
 市戦災死没者遺族会建之

5 大垣市戦災遺族会追悼式



開催概要 (平成24年度)

歳事名：大垣市戦災遺族会追悼式
 会場：護国霊苑
 (養老鉄道 北大垣駅 徒歩3分)
 日時：平成24年7月29日(日) ※例年7月最終日曜日開催
 参加者数：約30人
 連絡先：大垣市戦災遺族会 0584-91-3639

式次第 (平成24年度)

- | | |
|----------|--------|
| 一、開式の辞 | 一、来賓紹介 |
| 一、国歌斉唱 | 一、献花辞 |
| 一、黙とう | 一、謝辞 |
| 一、会長式辞 | 一、閉会の辞 |
| 一、来賓追悼の辞 | |

式辞 (平成24年度)

戦後六十数年 昭和二十年八月十五日から経過したあの戦争は何だったのか。太平洋戦争はだんだん我々の心から風化していくのではないかと、現在戦災遺族会は毎年その空襲記念日には慰霊祭とか追悼式という毎年勤めているのが実情であります。今年もご多忙のところお出でいただいたご来賓、遺族会の皆様、ありがとうございます。

あの当時、私たちは学徒動員によって四日市市塩浜町にあった第二海軍燃料廠へ出動した。私は岐阜師範学校技本二年満十九歳、徴兵検査年齢を下げて、その検査に合格していたが教員養成の学校であるということで入学延期の扱いを受けて勉強中であつた。しかし燃料廠は文字通り海軍の直轄工場であつたので内部の詳細については軍機秘であつたので何もわからず、ただ大手建設業者大林組の仕事で、官、民、学生一帯となつた突貫土木工事であつた。私も学生は現在のように仕器も殆どなくスツップを手に汗だくの大規模な工事であつた。私も工場の隣にあった海軍寮の宿舎に泊り毎日の生活も海軍寮の指揮下に入り朝晩の点呼をはじめ軍隊のように厳格な規律ある生活であつた。か論学生であるので学校からは多くの先生たちが交代で指導していただいたことも、夜は学生の本分である学習をしたことも覚えていた。しかし昼間の過酷な労働により、へとへととなり、すぐに寝込んでしまうことも多々あつた。食事も食券制度で若い我々には必ずしも充分ではなかつた。

次に、東海地方に地震と本格的空襲がはじまつた。しかし、十二月七日だつたと思つている。本土空襲も毎日に激しさを増す頃だつた。

「いよいよ明日は大垣空襲日、開戦記念日である。来軍機秘に東海地方の軍需工場がひびく四日市を含む中京工業地帯は必死である。建設中で資材が散乱しているが明日は見えぬ最後を迎えるため周辺を整理してきれいな最後を迎えたい。」という現場長からの指示があつた。明日は開戦日であつた。燃料廠は爆撃によって破壊されるかもしれないのである。大きなパイプ、材料の屑、海軍、海軍、大きな直徑五センチ、一メートルの円筒、そんなものが東へゴロゴロ、西へゴロゴロ、何十キロ、中には何百キロ、その下敷きになつたら一発でおしまひ取り扱つた器具一瞬にしてくずれ去つたのです。尾鷲の方では津波もあり被害は大きかつたようですが、戦争中のごとく発表はひかえられたようでした。あくる二十年一月中旬にも三河地震が夜半におき、更に追いつけようとした。

私どもの大垣市は大垣空襲五十年記念誌戦災年表の記録では、昭和二十年三月二日に初空襲を受け、第二回目は六月二十六日、続いて第三回目七月十二日から十三日、第四回目七月二十四日、続いて二十八日から二十九日の大空襲で大垣市は焼野原になつてしまつたようです。当時、私は前橋陸軍予備士官学校で特別訓練を受けておりました。大垣の空襲を知らず前橋の八月五日の空襲はどうだったのか今でも目の前へ浮かんできます。特に東海地方は空襲の他に戦艦攻撃、戦艦攻撃による機銃掃射を低空で受けたこともありました。六月二十五日には神島に地上戦は終り次は首領艦の上陸作戦がくるのではないかとこの時期になつてしまつた。毎日夜間に兵隊の連隊など軍馬を出(後名山中)へ移動など決戦に具えていたようでした。八月十五日は午前中の訓練、兵器の移動作業を終つて中隊へ帰つたら玉音放送中だつたのを見ておられます。その間でも戦争に勝てるのかと思つて毎日でした。あの苦しかった毎日、東京では三月十日の夜の空襲で十万人もの人が犠牲になつたということ。太平洋戦争の総括なくしてどうして平和が語れるのだろうか？

また、われわれ日本は何を反省すればいいのか。六十数万人の犠牲といわれている戦災犠牲者のみたまのため慰霊とおそれたことと言うが追悼の式典だけでよいのかということです。今尚、この世界中にはあちこちで争われている戦争、これらを含めて考えなければならぬといふそれが我々に与えられた使命であると考え本日の式典の式辞と致します。

平成二十四年七月二十九日
 大垣市戦災遺族会長 岩田 一夫

6 戦没者・戦災死没者追悼式



※写真提供 大垣市

開催概要 (平成24年度)

歳事名：戦没者・戦災死没者追悼式

会場：護国霊苑

(養老鉄道 北大垣駅 徒歩3分)

日時：平成24年8月15日(水) ※例年8月15日開催

参列者数：600人

連絡先：大垣市 かがやきライフ推進部 まちづくり推進課 0584-81-4111 (代表)

式次第 (平成24年度)

1. 開式のことば
2. 黙と
3. 主催者式辞
4. 来賓追悼のことば
5. 主催者献花
6. 来賓献花
7. 一般献花
8. 謝辞
9. 閉式のことば

式辞 (平成24年度)

本日ここに、ご来賓、ご遺族の皆様方にご参列を賜り、戦没者ならびに戦災死没者の追悼式を執り行うにあたり、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦において、ひたすら祖国の繁栄と勝利を信じて尊い命を捧げられました、多くの御霊を思うとき、私たち日本国民にとりまして、永遠に忘れることができない、深い悲しみであります。

御霊の主な戦没地域は、墓碑銘により、フィリピン、レイテ、マリアナ諸島、サイパン、中国全域、ソロモン群島、ガダルカナル、沖縄、硫黄島、ビルマ、インパール、モンゴル、ノモンハンなどであります。

加えて、B29による大垣空襲の犠牲者が含まれ、まさに、先の大戦は、わが郷土大垣にも大きな惨禍を残しました。

最愛の肉親を失われたご遺族様の悲しみと追慕の念に思いを致すとき、万感胸に迫るものがございます。

67年前の今日、蟬時雨が鳴きしきる正午、途切れ途切れの玉音放送により、私たちは戦争の終結を知りました。往時に思いを巡らせば、苦難と悲しみが昨日のこのようによみがえってまいります。

あれから60有余年がたち、悲惨な戦争の歴史を刻んだ本市も、先人の皆様のたゆめぬ努力が実を結んで復興を果たし、今や中部圏有数の産業文化都市として発展してまいりました。

世界に目を向けますと、先日開催されたロンドンオリンピックでは、各国の選手がスポーツを通して競い合い切磋琢磨し、感動と人間の可能性を世界中の人々が共有し感じることができました。

こうした平和と繁栄も戦火の中で散華された多くの尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れてはなりません。

私たちは、悲惨な戦争への教訓を風化させることなく、あの悲しい歴史を繰り返さないよう決意を新たにするとともに、平和への不断の努力と、住民が力を合わせて安全で住みよい地域社会づくりに邁進することをお誓い申し上げます。

終わりにあたり謹んで御霊のご冥福とご遺族様ならびに参列者皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、式辞といたします。

平成二十四年八月十五日

大垣市連合自治会連絡協議会会長 國枝 義晃

7 慰霊碑



基本情報

所在地：八幡神社跡 神置公民館 南
住所：岐阜県各務原市神置町3
(名古屋鉄道 新那加駅より ふれあいバス「神置南」下車 徒歩2分)
連絡先：不明
建立者：不明
建立年：昭和39年4月

碑文

【表】

慰霊碑

【裏】

昭和三十九年四月建之

【裏下】

第二次世界大戦
戦没者俗名
八幡神社氏子
(故人名)

8 平和之塔



基本情報

所 在：各務原 市民会館・文化ホール
 住 所：岐阜県各務原市蘇原中央町2-1-8
 (名古屋鉄道 三柿野駅より 岐阜バス「各務原市民会館前」下車 すぐ)
 連絡先：個人であり記載せず
 建立者：各務原市戦災遺族会
 建立年：昭和55年12月

碑文

平和之塔

武藤 嘉文書

説明文

【左】

各務原に 平和の塔や 春霞

京寿

【右】

平和の塔建立の記

かの苛烈なる太平洋戦争は昭和二十年八月十五日我が日本の無条件降伏によって終熄し 大日本帝国は二千有余年の歴史に一つの変化を産み昭和二十七年四月二十八日サンフランシスコにおける平和条約によって新生日本の出発を見るに至りました
 いわば焼土の中に甦った 我が日本はまさに不死鳥の再生のごとく羽ばたいていたのでありますしかして我々は此の歴史の移り変りに対して正しい姿勢を持ち
 子々孫々に至るまで平和を願ふ教訓とせねばならない
 しかし乍ら戦後日本政府は軍人軍属に対しての慶弔と遺族に対する慰藉の方途ば講じたが身に寸鉄を帯びない国民の犠牲に対する措置としては今日なを顧り見ることが忘れがちの中に於いてわれは数多い犠牲の上に今日の繁栄が築かれたのであることを認識しこの犠牲に対する戦災の記録をかつての空襲において最も多くの犠牲者を出した此の地に塔を建立し戦災犠牲者名を列記して其の当時を回顧しつつ、日本の遠々の平和と繁栄を祈念し永く後世に此の意を伝えんことを希うものである